

和泉市の「心不全検査」、国際医療賞で優秀賞 心不全の早期発見へ、行政と地域医療が連携

～特定健診にBNP測定を導入、重症化予防と医療費抑制に期待～

大阪府和泉市で進める心不全の早期発見を目的とした「心不全検査」の取り組みが、国際的な医療賞「UNIVANTS 2026」で優秀賞を受賞しました。自治体と地域医療機関が連携する日本初の実践例として、高く評価されたものです。

この取り組みは、心不全の早期兆候を捉える血液検査(BNP)を特定健診に組み込み、心不全リスクを早期に把握して受診勧奨や専門医療機関への紹介、継続的なフォローアップにつなげるものです。重症化や入院の回避をめざす、持続可能な地域医療モデルとして注目されています。

高齢化に伴い心不全患者の増加が課題となる中、和泉市の心不全検査は、健康寿命の延伸や医療費負担の軽減にもつながる先進的な事例と位置づけられます。今後は、他地域への展開も期待されています。

■ 患者にとってのメリット(早期発見・安心・生活の維持)

この仕組みにより、従来の健診では把握しにくかった心不全やそのリスクを早期に見つけることが可能になり、自覚症状がない段階でも、早めの受診や生活改善につなげることができます。

この検査で心不全と診断された人は医療機関で早期に治療を開始し、疑いがある人には6か月後に再度BNP測定を実施します。状態の悪化が確認された場合は、専門医療機関へ速やかに紹介します。

切れ目のないフォロー体制により、心不全の前段階や潜在的リスクがある人に生活指導や治療介入、継続的な管理を行い、症候性心不全の発症予防をめざします。

早期発見は入院や急性増悪の予防につながり、QOL(生活の質)を保ちながら治療を継続できる可能性を高め、高額な入院治療の回避や、患者と家族の負担軽減にもつながります。

精密検査の過程では、心不全の原因となる基礎疾患に加え、甲状腺機能異常や貧血など他の疾病が見つかる場合もあり、早期治療につながる利点があります。

■ 医療費抑制と地域医療への波及効果

心不全で入院治療が必要になった場合、年間医療費は1人あたり約117万円にのぼります。一方、2024年度の和泉市特定健診で心不全と診断された17人については、早期発見と適切な介入により入院を回避できれば、外来管理(年間約5.4万円)へ移行できる可能性があります。その結果、約1,900万円の医療費抑制効果が期待されます。

和泉市の特定健診対象者約17,000人のうち7割がBNP検査を受診した場合、心不全患者・疑い患者の早期管理により、将来的に大規模な医療費削減が見込まれます。

■ 今後の展望

精密検査の未受診者への受診勧奨が課題であり、健診でBNP高値が確認された人を適切な受診につなげる体制を強化することで、早期発見・早期介入の効果向上をめざしていきます。

■ 心不全パンデミックに対する実装可能な解決モデル

和泉市の心不全検査は、自治体健診を基盤とした実装性、医療機関と行政の連携による持続性、他地域へ展開できる再現性を備えたモデルであり、健康寿命の延伸や医療費負担の軽減、安定した医療提供体制の維持への寄与が期待されています。



※ UNIVANTS of Healthcare Excellence (UNIVANTS) は、診断・治療・予防を通じて医療アウトカムの向上に貢献した先進的な医療連携やシステム変革を、世界規模で顕彰する国際的プログラムであり 2018 年に設立され、多職種・多機関の連携により、患者、医療システム、社会全体に対して持続的な価値を創出した取組を評価することを目的としています。

(<https://www.univantshce.com/int/ja/home.html>)